

令和4年度 新川みどり野高校 年間指導計画 (シラバス)

学科	教科	科目 (講座名)	対象学年	単位数	教科書	使用教材
普通科・福祉教養科	公民	現代社会	全	2	現代社会 (東京書籍)	新編テーマ別資料現代社会2022 (とうほう)
目標と評価規準		関心・意欲・態度	現代社会の課題を意欲的に追究するとともに、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。			
		思考・判断・表現	現代社会の課題について多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場を踏まえ公正に判断する。			
		資料活用・技能	有用な情報を主体的に選択して、これらを自己形成に資するように活用する。			
		知識・理解	現代社会の課題と人間としての在り方生き方に関わる学び方を理解し、その知識を身に付けている。			
学期	月	単元	学習内容		到達度目標	
前期	4月	第1部 わたしたちの生きる社会	①地球環境問題 ②資源・エネルギー問題 ③科学技術の発達と生命 ④情報化の進展と生活		・学習におけるスキルを身に付け、主体的に学習する方法が理解できる。	
		第2部 現代の社会と人間 第1章 青年期と自己形成の課題 1. 現代社会と青年の生き方 2. よりよく生きることを求めて	①現代社会と青年 ②青年期の発達課題 ③自己形成と社会とのかかわり ④進路と生きがいの創造		・現代社会の特質や青年期の意義について理解できる。 ・自己形成の課題として問題をとらえ、主体的にいかに関わるかを考えることができる。	
	5月	第2章 日本国憲法と民主政治 1. 民主政治とは 2. 日本国憲法の基本原理 3. 日本の政治機構	①哲学と人間 ②宗教と人間 ③近代科学の考え方 ④人間の尊厳 ⑤人間性の回復を求めて ⑥日本の伝統思想の考え方 ⑦外来思想の受容と日本人の自覚		・先哲の思想を手がかりに人生の価値追求への関心をもつことができる。	
			①民主政治の成立 ②基本的人権の確立 ③世界の政治体制		・環境権などの新しい人権や定住外国人の地方参政権問題、人権保障の国際化など、現代的なテーマを中心に、人権の歴史・意義などが理解できる。 ・テロ対策特別措置法やイラク復興支援特別措置法、ガイドライン関連法、有事法制関連3法と7法などを例にとり、冷戦後の自衛隊や日米安全保障条約の役割や機能の強化が理解できる。 ・国民主権と議会制民主主義、平和主義と我が国の安全について理解できる。 ・日本国憲法の基本的原則について国民生活とのかかわりから認識を深めることができる。	
			①日本国憲法と三つの原理 ②③基本的人権の保障(1)(2) ④新しい人権と人権保障の広がり ⑤⑥平和主義と安全保障(1)(2)			
6月	①国会と立法 ②内閣と行政 ③裁判所と司法 ④地方自治					
7月						
9月						
後期	10月	4. 現代政治の特質と課題	①選挙のしくみと課題 ②政党と利益集団 ③世論と政治参加		・地方首長選挙や国政選挙などの模擬投票を通じて、民主政治の仕組みを理解するとともに、主権者としての自覚をもち、政治に参加する意義について考えることができる。 ・生命の尊重、自由・権利と責任・義務、人間の尊厳と平等、法と規範などについて考え、民主社会において自ら生きる倫理について自覚を深めることができる。	
		第3章 現代社会と法 1. 現代社会と法	①法の働き ②社会生活と法 ③司法と人権		・法の支配が確立した経緯を理解できる。 ・基本的人権の発達を理解できる。 ・国連やN G Oの活動に着目し、その役割や課題について理解できる。	
	11月	第4章 現代の経済と国民福祉 1. 経済のしくみ 2. 変化する日本経済	①経済社会の変容 ②現代の企業 ③市場経済のしくみ ④国民所得と経済成長 ⑤金融のしくみと働き ⑥中央銀行の役割と金融の自由化 ⑦政府の役割と財政 ①戦後復興と高度経済成長 ②産業構造の転換と国際経済環境の変化 ③バブル後の日本経済 ④中小企業と農業		・現代を切り口として物事を捉えていくという方法を身に付ける。 ・プラザ合意後の日本経済の歩みを、不良債権問題、金融ビッグバン、財政危機などの今日的な問題と関連させながら理解できる。 ・公定歩合の変動に関するグラフを、具体的にプラザ合意後の景気変動と関連させて考えることや、グラフや統計資料の読み方が理解できる。	
		3. 豊かな生活の実現	①自立した消費者への道 ②労働者の権利 ③現代の雇用・労働問題 ④社会保障の役割 ⑤環境保全と循環型社会			
	12月	第5章 国際社会と人類の課題 1. 国際政治のしくみと動向 2. 国際経済のしくみと動向	①国際社会の特質 ②国際紛争を避けるしくみ ③国際連合と安全保障 ④国際連合の役割と課題 ⑤冷戦とその後の世界 ⑥軍縮への取り組み		・反グローバリズムの運動などを例にとり、ボーダーレス化する経済の光と影の部分、「地球規模で考え、地域で行動する」ことの重要性が理解できる。 ・EUにおける地域的経済統合の特色を、他のNAFTA、EFTA、ASEANなどの地域的経済統合と比較しながら理解できる。 ・冷戦の終結を宣言したマルタ会談の意義と、東アジアにおいてはまだ冷戦構造が存続していることが理解できる。 ・日本の国際貢献に関する問題を、テロ対策特別措置法やODA、平和憲法などを例にとりながら、国際社会における日本や個人の果たすべき役割や責任を考えることができる。	
			①貿易と国際分業 ②外国為替のしくみと国際収支 ③戦後国際経済の枠組みとその変化 ④対立と協調の時代 ⑤グローバル化する経済 ①地域統合の進展 ②変容する世界経済 ③国際的な格差の是正 ④地域紛争と難民問題 ⑤国境をこえて広がる地球規模の課題 ⑥日本の役割			
1月	3. 国際社会の現状と課題					
2月	第3部 ともに生きる社会をめざして	①若者の労働環境 ②混雑や渋滞の回避 ③ゴミ処理問題 ④発展途上国の開発と貿易のあり方 ⑤世代間の支え合い ⑥原子力発電の課題				

令和4年度 新川みどり野高校 年間指導計画(シラバス)

学科	教科	科目(講座名)	対象学年	単位数	教科書	使用教材
普通科・福祉教養科	公民	倫理	全	2	倫理 (東京書籍)	なし
目標と評価規準		関心・意欲・態度	人格の形成と生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲を持つ。			
		思考・判断・表現	人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察するとともに、広い視野に立って主体的に判断する。			
		資料活用・技能	有用な情報を主体的に選択して、これらを自己形成に資するように活用する。			
		知識・理解	青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。			
学期	月	単元	学習内容		到達度目標	
前期	4月	第1章 青年期の課題と自己形成 1節 青年期の意義	①現代の青年 ②青年期の位置づけ ③青年期の特徴		・人生における青年期の位置づけや特徴などについて考え、青年期特有の課題であるモラトリアムとしての時期やアイデンティティの確立、自己実現の追求、自己理解の方法などについて理解する。	
		2節 青年期の課題と生き方	①主体性の確立 ②自己理解 ③幸福と生きがい			
	5月	第2章 人間としての自覚 1節 人間とは何か 2節 ギリシャの思想	①人間と哲学 ①自然哲学とソフィスト ②ソクラテス ③プラトン ④アリストテレス ⑤ヘレニズム時代の思想		・ギリシャの三傑といわれる「ソクラテス・プラトン・アリストテレス」の生き方、考え方の違いを明確にしなが、ギリシャ思想について理解することができる。	
		3節 キリスト教 4節 イスラーム 5節 仏教 6節 中国の思想 7節 芸術と人生	①旧約聖書の倫理 ②イエスの教え ③キリスト教の展開 ①ムハンマドとイスラームの教え ②イスラームの展開 ①古代インドの思想 ②ブッダの思想 ③仏教の展開 ①孔子と儒家の思想 ②儒家思想の展開 ③老荘思想 ①自然や芸術との対話 ②創造的な鑑賞への誘い		・キリスト教とイスラーム、仏教の基本的な考え方だけでなく、歴史的な成立過程や発展、拡大の経緯についても理解することができる。 ・ユダヤ教とキリスト教、イスラーム教の特徴をまとめ、それぞれの違いを明確にすることができる。 ・古代インドの思想からブッダが仏教を開くまでの歴史を理解することができる。 ・「慈悲」と「アガペー」の違いに着目しながら、仏教の特徴を理解することができる。 ・諸子百家とよばれる思想家が春秋戦国時代に登場した背景について理解することができる。 ・儒教と道教の特徴をまとめ、違いについて理解することができる。また、その後の中国思想の展開について理解を深めることができる。 ・芸術(絵画・音楽など)の作品を通して、芸術家の考え方や生き方を学び、人間の心にもたらす豊かさや潤いなどに気付く。	
	7月	第3章 国際社会に生きる日本人の自覚 1節 日本人の精神風土	①日本人の宗教観 ②日本人の倫理観		・豊かな自然環境と神との関わりについて、和辻哲郎の考えや「古事記」などから古代日本人のものの考え方を、精神風土との関係でとらえることができる。	
		2節 仏教と日本人の思想形成 3節 儒教と日本人の思想形成 4節 国学の思想 5節 庶民の思想	①仏教の受容 ②仏教の日本的展開 ③仏教と日本文化 ①儒教の受容 ②儒教の日本的展開 ①国学の形成と展開 ①庶民の思想の発展 ②幕末の思想		・外来思想である仏教の受容や日本の仏教の特色や仏教と日本人の思想形成との関わり、無常観・美意識・武士道などにおける特色をとらえることができる。 ・儒教の日本的展開について、日本の朱子学や陽明学、古学、古文辞学などについて特徴をつかみ、違いを理解することができる。 ・本居宣長の思想を中心に、国学の特色について理解する。 ・町人の思想や農民の思想、幕末の思想、西洋文化との接触から近世の日本思想について理解する。	
	10月	6節 西洋思想と日本人の近代化 7節 国際社会に生きる日本人の自覚	①近代への啓蒙 ②国民道徳とキリスト教 ③近代的な自己の求め ④社会思想の展開 ⑤近代日本の創造的な思想 ①戦後思想の動向 ②グローバル化と日本人		・西洋文化との接触後、啓蒙思想、自由民権思想、国家意識、キリスト教思想などと日本人の思想形成について理解する。 ・近代の代表的な作家や文学者の思想を通して、日本人が自己の内的世界についてどのように思索したか理解する。 ・主体的に生きる人間として国際社会における役割と責任を果たす日本人としての自覚について考えることができる。	
		第4章 現代を生きる人間の倫理 1節 人間の尊厳の根拠を求めて 2節 民主社会と自由を求めて	①人間尊重へ向けて ②理性への信頼と懐疑 ③経験論と合理論の対話 ①社会契約説 ②人格の尊厳—カント ③ヘーゲルの人倫の思想		・西洋の人間観と人間尊重の精神について、ルネサンスや宗教改革、合理的精神(ペーコンとデカルト)、モラリスト(モンテーニュとパスカル)、経験論と合理論の展開について理解することができる。 ・近代的な個人の自覚から、人間の在り方と社会との関係について、社会契約説(ホッブズ、ロック、ルソー)、カント、ヘーゲルの思想を理解し、考えを深めることができる。	
	後期	11月	3節 社会変革の倫理を求めて 4節 新たな人間像を求めて	①功利主義 ②社会主義思想 ③実証主義と進化論 ④プラグマティズム ①主体性の回復を求めて ②現代の実存哲学 ③人間観と言語観の問いなおし		・功利主義や社会主義の思想を通じて、近代資本主義社会の問題とその克服について考えを深めることができる。 ・人間社会の変革の思想について、実証主義や進化論、プラグマティズムの思想を理解することができる。 ・人間や社会の在り方の急激な変化による近代的な理性への問いなおしとし、実存哲学やフランクフルト学派、構造主義など現代思想の人間観・言語観について理解することができる。
			5節 自然や科学技術と人間とのかかわり 6節 民主社会の成熟のために	①近代的自然観 ②自然との調和 ①差別と偏見のない社会 ②社会参加と奉仕 ③公共性のための場を開く		・環境問題や生命に関わる倫理的課題の解決のために、畏敬の念を考慮しながら科学技術の基礎にある自然観について理解する。 ・民主社会の実現のために、あらゆる差別や偏見などの解決が求められること。また、それらとどのように関わっていくかを地域の特殊性を考慮し、日常の具体的事例に即して考えることができる。 ・現代社会における公共性について、アーレント、ハーバーマス、ロールズ、センの思想について学習し、個人とコミュニティの関係について考えを深めることができる。 ・男女差別やフェミニズムやジェンダーについての課題や解消法について自分の考えをまとめることができる。
12月		5節 自然や科学技術と人間とのかかわり 6節 民主社会の成熟のために	①近代的自然観 ②自然との調和 ①差別と偏見のない社会 ②社会参加と奉仕 ③公共性のための場を開く		・環境問題や生命に関わる倫理的課題の解決のために、畏敬の念を考慮しながら科学技術の基礎にある自然観について理解する。 ・民主社会の実現のために、あらゆる差別や偏見などの解決が求められること。また、それらとどのように関わっていくかを地域の特殊性を考慮し、日常の具体的事例に即して考えることができる。 ・現代社会における公共性について、アーレント、ハーバーマス、ロールズ、センの思想について学習し、個人とコミュニティの関係について考えを深めることができる。 ・男女差別やフェミニズムやジェンダーについての課題や解消法について自分の考えをまとめることができる。	
		第5章 現代の課題を考える 1節 生命 2節 家族 3節 地域社会 4節 情報社会 5節 文化と宗教 6節 環境 7節 国際平和と人類の福祉	①生命 ②家族 ③地域社会 ④情報社会 ⑤文化と宗教 ⑥環境 ⑦国際平和と人類の福祉		・今日の生命や死、医療の問題、核家族や新しい家族形態、少子高齢化・高齢社会、地域社会の在り方、情報社会のメディア・リテラシー、グローバル社会における文化と宗教の在り方、持続可能な社会のために必要な在り方、未来の福祉と世界の平和について、課題を設定し、解決に向けて情報を収集・整理・分析したり、周囲の人と意見交換・協働したりしながら理解を深めることができる。	
2月	第5章 現代の課題を考える 1節 生命 2節 家族 3節 地域社会 4節 情報社会 5節 文化と宗教 6節 環境 7節 国際平和と人類の福祉	①生命 ②家族 ③地域社会 ④情報社会 ⑤文化と宗教 ⑥環境 ⑦国際平和と人類の福祉		・今日の生命や死、医療の問題、核家族や新しい家族形態、少子高齢化・高齢社会、地域社会の在り方、情報社会のメディア・リテラシー、グローバル社会における文化と宗教の在り方、持続可能な社会のために必要な在り方、未来の福祉と世界の平和について、課題を設定し、解決に向けて情報を収集・整理・分析したり、周囲の人と意見交換・協働したりしながら理解を深めることができる。		

令和4年度 新川みどり野高校 年間指導計画(シラバス)

学科	教科	科目(講座名)	対象学年	単位数	教科書	使用教材
普通科・福祉教養科	公民	政治・経済	全	2	政治・経済 (東京書籍)	テーマ別資料 政治・経済
目標と評価規準		関心・意欲・態度	社会の出来事に関心を持ち、現実の情勢を主体的に探究する。			
		思考・判断・表現	社会の諸課題について考察し、公正に判断し、適切に表現する。			
		資料活用・技能	情報を的確に読み取り、必要に応じて取捨選択したり、まとめたりすることができる。			
		知識・理解	社会の課題と人間としての在り方生き方に関わる学び方を理解し、その知識を身に付ける。			
学期	月	単元	学習内容		到達度目標	
前期	4月	第1章 現代の政治	①民主政治の成立 ②基本的人権の確立		・社会契約の内容や社会契約説を唱えた思想家の考え方について理解できる。 ・議会制民主主義の特徴、大統領制、社会主義体制などの政治機構について理解できる。	
		1節 民主政治の基本原則	③現代の民主政治 ④世界のおもな政治体制			
	5月	2節 日本国憲法の基本原則	①日本国憲法の制定と基本原則 ②基本的人権の保障 ③平和主義		・日本国憲法の成立過程、内容、人権保障の意義を理解できる。また、新しい人権についても理解できる。 ・憲法前文や憲法9条の精神をふまえ、自衛隊、PKO、日米安保のあり方を理解できる。	
		3節 日本の政治機構	①国会と立法 ②内閣と行政 ③裁判所と司法 ④地方自治			
	6月	4節 現代政治の特質と課題	①戦後政治と政党 ②選挙と政治意識 ③世論と政治参加		・日本の選挙制度の歴史と現状を理解できる。 ・日本の政党政治の問題点、課題を理解できる。 ・地方首长選挙や国政選挙などの模擬投票を通じて、民主政治の仕組みを理解するとともに、主権者としての自覚をもち、政治に参加することの意義を考えることができる。 ・マスメディアの責任を理解できる。	
		5節 現代の国際政治	①国際政治の特質 ②国際社会と国際法 ③国際連合の役割と課題 ④戦後国際関係の展開と日本 ⑤国際政治の課題 ⑥地球環境と資源・エネルギー問題 ⑦国際社会における日本の役割			
	7月	第2章 現代の経済	①資本主義体制の成立 ②資本主義経済の発展と変容		・資本主義経済の特徴、歴史を理解できる。 ・現代資本主義の特徴、グローバル化を理解できる。	
	9月	1節 現代の資本主義経済				
	後期	10月	2節 現代経済のしくみ	①経済主体と経済の循環 ②生産のしくみと企業 ③市場経済の機能と限界 ④国民所得と経済成長 ⑤金融のしくみと機能 ⑥財政のしくみと機能		・三つの経済主体、特に企業の活動について理解できる。 ・市場経済の需要と供給について理解できる。 ・経済活動を把握する指標、景気変動を理解できる。 ・通貨、金融の役割、中央銀行の金融政策を理解できる。
			3節 日本経済の発展と産業構造の変化	①経済再建から高度経済へ ②オイル・ショック後の日本経済 ③日本経済の現状		
4節 福祉社会と日本経済の課題			①公害と環境保全 ②消費者問題 ③農業・食料問題 ④中小企業の現状と課題 ⑤雇用と労働問題 ⑥社会保障と福祉			
11月		5節 国民経済と国際経済	①貿易と国際収支 ②国際経済体制の展開 ③発展途上国の経済 ④地域主義の動き ⑤グローバル化する世界経済		・貿易決済としての外国為替のしくみを理解できる。 ・IMF-GATT体制からWTOの成立まで戦後経済の変化や発展途上国の現状、地域主義の動きを理解できる。 ・世界の情報化社会の現状と課題を理解できる。	
12月		第3章 現代社会の諸課題	①少子高齢化社会と社会保障 ②地域社会の活性化		・少子・高齢化の社会的影響を理解できる。 ・住民生活における自治の重要性を理解できる。 ・雇用形態の変化が与える社会的影響を理解できる。 ・日本経済を中小企業が支えている現実を理解できる。 ・農業の国際化の現状と課題を理解できる。	
1月		1節 日本社会の諸課題	③若者の労働環境 ④中小企業の活路 ⑤日本の「食」と「農」			
2月		2節 国際社会の諸課題	①地球環境とエネルギー ②経済援助と貧困 ③パレスチナ問題 ④地球社会で日本がなすべきこと		・エネルギー開発の重要性を理解できる。 ・被援助国の経済的自立の重要性を理解できる。 ・人種・民族の独立と共生の必要性を理解できる。 ・国際平和の視点で日本の役割について理解することができる。	